

信用・信頼の下に人を優しく受け入れる牧場理念

青森県三沢市
下谷 栄治

丁度二年前の春の連休を挟み、一人の友人がカワヨグリーン牧場でボランティア労働に汗を流していました。昨年その友人から招待を受け、川口夫妻が彼を訪ねられ、そして先般、今度は川口夫妻のお誘いで友人夫妻がカワヨグリーン牧場を訪れました。

当時彼はある出来事から精神的に人生のどん底にあり、私は転地保養を提案しました。川口オーナーに事情を出来る限り正確に説明し、彼の受け入れをお願いしました。ともすればその人の素性或政治的思想から始まり、少しでも迷惑を蒙らない為の確認作業と手立てを考えるのが組織のトップにありがちで寧ろ今時の世相から見れば常套かも知れません。例えば物造りの実業企業経営者の場合は、人を受け入れる時には先ずその人をチェックし、リスクを出来るだけ排除することはある意味当然のことであり、それは経営者としての評価要素にもなっている面があるようです。所謂「性悪説」の世相かも知れません。

ところが川口オーナーからは、同様の趣旨でそれまでにも幾人かの人を受け入れ、結果として程度の差こそあれ皆さんが前向きの姿勢になっていった実績があるという牧場労働による効果の説明があり、お薦めの言葉を戴いたのでした。

カワヨグリーン牧場、そしてその経営者である川口オーナーの経営理念は「人造り」にあり、世界観、倫理観、人間観等々は須くそれを基本にされていると思っていましたし今は確信して居るところです。事実川口オーナーからは何一つ疑念の質問や条件も示されることなくご了解戴いたのでした。「人を疑って掛かるぐらいなら、まずは信用・信頼して受け入れ、それでも結果として騙される方が良い」という考え方です。所謂「性善説」と言うことでしょう。

人の世はお互いの信用と信頼で成り立つものと考えています。若い時は唯物性が席卷しがちでなかなかその精神性を理解し実践することは困難なことでしょう。多くの失敗や挫折を経験し歳を重ねる中でそれに気付き、確信して行くべきものでしょう。自ら人を受け入れる心の広がりや深さを求めることが大人としての価値であり且つ使命と心得て、具体的には子供や孫へ或いは後輩へと時間軸（縦軸）に沿って、同時に職場での人間関係やサークルでの仲間関係等の空間軸（横軸）に展開して広げ深める努力が必要なのでしょう。

私自身六十年足らずの人生で、触れ合う方々から信用・信頼戴いたことで幾度となく救われました。その分否それ以上に、今度は私が触れ合う方々を信用・信頼することが人間関係の基本であることを肝に命じて、縦軸・横軸に心を広げ深める努力を続けて行きたいと思っています。

二年前、ロッジ宣言「人間らしく生きよう」「人間らしく付き合おう」「自然の中で語り合おう」を唱えるまでもなく、彼は「ボロ拾い（馬糞片付け）」をはじめとするボランティア労働や、その中で出会った方々との触れ合いを通して徐々

に自分自身を取り戻して行ったのでした。

今般彼と奥様は改めて川口オーナーご夫妻に謝意を伝え、再会を約束して帰って行きました。その証として59歳の彼は元気に力強く人生を歩んで居ます。

まだ見ぬ写真

東京都目黒区
白石 尚基

不惑の年もすぎたというのに、いまだに人生探しをやっている白石尚基です。皆様にはご無沙汰しており、川要のおとうさん、おかあさんはじめ、牧場クラブの方々には申し訳ありません。

小生は、神奈川県横須賀市にある大学病院の内科学の医師に公募で選出され、4月1日、赴任しました。一気に怒涛のごとく押し寄せるいろいろな委員会や会議をクリアしながら、歯学部学生や看護学生に対する臨床医学教育や実習指導、そして外来での臨床を行っています。

さて、最近の話ですが、日本医師会長に原中勝征といわれる方が当選されました。そうですね、私が医学部学生の一、二年生のとき、大学をやめようかどうしようか悩んでおり、長期の休みになると必ずカワヨ牧場でお世話になっていました。もちろんおとうさん、おかあさんにも遅くまで個人的に話を聞いていただき、とても安心したことを今でも覚えています。丁度そのころの話です。

かつてこの原中氏のご自宅に私がお邪魔した際の写真があるとのこと、とあるところから判明しました。当時日本大学医学部生化学教室の助教授をされていた原中瑠璃子先生に漢方医学を教わっていました。現医師会長の原中氏は原中助教授のご主人です。また原中氏は、今でこそ医師会長になりましたが、当時は東大医科学研究所で、まだ実験室レベルでしか研究されていなかったTNF- α （‘腫瘍壊死因子’という物質で、現在ではすでに薬物として用いられています）の抽出や臨床応用についてのご研究を行われておられました。2年生の生化学の講義の中で、特別講師として招聘された原中氏は、当時の苦労話などされ、まだ右も左もわからない私たち学生は難しい内容はよくわからず？も先輩の講義を拝聴していました。確か、四年生か五年生のときでしたでしょうか、奥様の原中助教授から、丁度新生が入ってきたので、うちに私の担当学生さんたちを呼ぶから白石君もきませんか？と問われました。お酒も出ると聞いた私は二つ返事でお宅訪問してしまいました。そのときに新生として入ってきた近藤俊彦君（現在都内目黒区でご開業され、実は拙宅の近所であったと後でわかったのですが）も、その中に新生の一人としておられました。原中先生のお宅にお邪魔して、お酒も入って、今から考えると赤面もののホールケイキ丸ごと一人で食っちゃう、とか、ワインの飲みすぎで、新生歓迎会に来ているのか、原中先生のうちで酒飲